

企業が伸びる、個性ある地域社会創造のために、今、何が必要か。何をすべきか。

# 地方のICT戦略 [60]

Information and  
Communication  
Technology

**ゴールドラッシュが起きた江戸時代から田畑が整備された佐渡は、世界農業遺産にも指定されている。急速に進む農地の喪失に歯止めをかけたいが、肝心の人が不足する中でICT活用による農協の業務効率化が必須となっている。**

**東京23区と同じ面積の佐渡で農業離れにどう歯止めをかけるか**

—現在、佐渡はどのような状況でしょうか？

急速に過疎化、高齢化が進み、とにかく人が足りません。子供たちも高校を出ると進学や就職で島外に行ってしまう。高卒の島内就職は20人位です。コロナ禍で観光業の仕事も減ってきて状況は深刻です。以前は島内にも仕事があつて兼業農家という形で農業しながら働きました。兼業含め生産者も7〜8千人いて1ヘクタールくらいの田んぼを個人経営で続けて暮らしてきました。金山で賑わったおかげで島内に



Interview  
佐渡農業協同組合（JA佐渡）  
代表理事 理事長  
堅野 信さん

はそこら中に田んぼがあり、作るには困りません。JAには黙っていても、米も、預金も入ってきました。

しかし、兼業収入の方が減ってきて、この10年は「農業を継いでも暮らせないよね」という流れです。新規就農も、少し前までは50〜60代で定年退職して、退職金で資本装備をして、集落の田んぼも受けつつ4〜5ヘクタールの規模にして地域を支えていたのです。その世代もいよいよ70代になり、10年後はどうなるのか。1ヘクタールの田んぼすら担い手がいなくて、集落でも受け手が無い。シンブルに計算しても、佐渡農業の今後が容易に想像できません。

—佐渡は農業に適した風土だと伺っています。

冬場以外は作物ができる風土でミカンもリンゴも採れます。タヌキより大きな害獣がいなくて農業をやるには最高の条件だと思えます。おけさ柿をはじめ園芸も盛んで、米よりも反収がよいこともあり、果実・野菜などもっと増やしたいと考えています。「会社勤めで苦勞するより、好



朱鷺を育む農法として、全島あげて減農薬に取り組んでいる。マークにも佐渡米と特産品の柿を使用。

きな園芸で暮らす」が、佐渡ならでき。柿なども生産者は減っています。畑はあるので、やろうと思えば明日からでも作れるんですよ。けれど、ちよつと手を入れれば継続できるものがポロポロと無くなっている。柿なんかまさにそうで目の前で伐られていく。もったいないですね…。

**現場に出たいー最もやりたい業務を優先できないジレンマ**

—どうしたら解決できるのでしょうか？

JAと農家さんの生産現場との関わり方を変えていくことだと考えました。私たちは「佐渡の未来やこれからの担い手のために農業を続けてもらいたい」と思いますが、農家さんは一人の経営者なので「年を取ったら辞めざるを得ない」「俺の代で終わらだから」「JAに一言「預けるよ」とあればいいのですが、私たちがもうまくつないでこなかった。地域の中で自然と、お互い様でやれていると思っていました。けれどももう集落にも助け合う余裕がないのでしよう。それをJAがどうつないでいくか、集落の話し合いや個々の農家にもっと寄り添っていかなければなりません。

あとは、農家の「やりがい」です。農業を支え続けていくのは収入面もありますが「誰かのためになっている」という「やりがい」も私たちはほうまくつなげていかなかった。「とうちゃん、腰が痛くてえなら、あそこのあんちゃん、おばちゃんに柿もぎ手伝ってもらおうか？」「防除はみんな共同にしんかさ」「若きやあもんに任せて、これからは父ちゃんの技術を教えてくれえさ」と集落内で役割や各々にやりがいを作っています。それが私たちの「やるべき仕事」だと思います。

か現場に行けない…。

人がいない中で、より一層合理的な仕組みを作らないといけない。これからは考えると組合員で米や柿など作れなくなったら、私たちが作れないか？それ位の気持ちもあつて「じゃあ、どうしたらできるか」になります。業務仕事に追われていたら田んぼや畑には行けないから合理化したいとなります。

従来のシステムでは制限があり、ネットワークにつながるパソコンは職員4人に1台しかありません。せつかく島内全域を結ぶネットワークがあるのに端末を持って外にも出られない。

営農指導の職員には本来なら朝夕方まで現場の田畑について欲しいのですが、事務仕事が発生する度に事務所に戻り、今日の活動報告にまた戻る。「すごく忙しい」と職員は言いますが、「そりゃ、そりゃだよ」となります。

そんな時にNTTさんから話を聞くことができました。全職員を結ぶネットワークができないか？携帯電話でコミュニケーションを取る方法がないか？そこからスタートしてOCRツールの「AIよみとり」や、事務所にいる人がさも現場にいるように見られる「スマートグラス」などの提案も受けました。

**業務の合理化だけでなく職員の意識向上にも活用したい**

—どのようなICT活用をお考えですか？

組合員との取引の伝票などをいま9つの事業所各々が起票していますが、ネットワークを使って本店で一括起票できればその職員は事務から解放されます。そうしたことをNTTさんに聞いたら「出来合いのシステムがあります。農業にもだいぶ関わっていますよ」と言われて、「外部の方というか、他の企業でも農業を考えてくれている。や

**U・ターン大歓迎!!**  
自然豊かな佐渡島で「新しい就農のカチ子」  
JA佐渡では3年間のUターン者から農業の知識や技術を身につけ、3年後のUターン者として活躍する制度を設けています！

ろうと思つてできなかったことがそうした企業とのパートナーシップで意外と簡単にできるんだ」と気付きました。

現在は営業、営農指導、農業機械整備の担当者には携帯を持たせています。が、ゆくゆくは全職員が持つて業務連絡や情報共有はそこを通じてやる計画です。例えば、営農指導員が生育状況を見に行ったら「〇〇さんの車が田んぼでひっくり返つていて。修理を呼んだら喜ばれたよ。」という情報共有でよいのです。今の忙しいままだとヘタをするとなんか通らなくてしまつてしまふ。自分がJA職員だと思えば、共済も、修理もやっているのでお手伝いできます。そうやって職員間の意識も変えていきたい。最終的には組合員とももっとつながりたいし、そういうツールになると思っています。

従来のネットワークやシステムを補完する形で、今後もNTTさんといろんなことをやっていけると考えています。

**Profile**  
○佐渡農業協同組合（JA佐渡）  
事業内容 信用事業、共済事業、購買事業、販売事業、農業倉庫事業、加工事業、利用事業、指導事業、その他事業  
本店 佐渡市原黒300番地1  
支店 数 9店  
従業員数 436人 組合員数 15105人  
※令和5年8月31日現在  
TEL 0950-27-6161代  
URL www.ja-sado-nigata.or.jp